

	事業名	〇〇事業	
	担当部局	〇〇局 〇〇課	
	予算規模（百万円）	〇〇百万円	
	事業区分	※当てはまるものに○	
		○	新規事業
			既存事業
			モデル事業
			大幅見直し事業
ロジックモデル提出日	2021/〇/〇〇	※本シートの点検対象であるバージョンの提出日	

表の見方

→修正**必須項目**

→修正**推奨項目**

○ 記入要領どおりに記載されていないため、修正が
必要な項目

○ 記入要領に沿って記載されているが、
同要領の観点からは改善の余地がある項目

ロジックモデルp.1 現状分析・課題・事業概要							
	対応 必須/ 推奨項 目	点検結果	ロジックモデルの 点検対象箇所	チェック項目/コメント	修正の方法・ヒント	修正イメージ （リンク）	その他（個別コメント）
1	必須	修正対象	現状分析	「現状分析」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、当該事業が求められる背景事情を説明する必要がある。 具体的には、「①エビデンス（データ・ファクトを含む。）を用いて ②可能な限り定量的に ③分析した」現状の記入となっているかを確認し、①～③の全てが満たされるように記入内容を見直す必要がある。		
2	必須	修正対象	現状分析	エビデンス（データ・ファクトを含む。）を記入したうえで、定量的な説明（高い・低い・上昇・低下など）を記入する必要がある。	記入要領に従い、エビデンス（データ・ファクトを含む。）を記載する必要がある。また、「現状分析」の記入内容を、そのエビデンス（データ・ファクトを含む。）に基づき現状を分析した内容に修正する必要がある。 なお、事業の根拠が法令や計画等である場合にも、その背景となったエビデンス（データ・ファクトを含む。）又は、法令や計画等と関係はないが、事業の現状を示すエビデンス（データ・ファクトを含む。）を記入し、それに基づいた現状を分析した結果を示す必要がある。	修正事例	
3	必須	修正対象	現状分析	記入されているエビデンス（データ・ファクトを含む。）が「現状分析」の根拠として成立している必要がある。	エビデンス（データ・ファクトを含む。）が示唆する内容と「現状分析」での説明は整合的である必要がある。以下の①又は②の対処を行う必要がある。 ①説明を十分にサポートできるエビデンス（データ・ファクトを含む。）に変更する。 ②エビデンス（データ・ファクトを含む。）の示唆から逸脱しない「説明」に変更する。	修正事例	
4	必須	修正対象	課題	「課題」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、事業の前提となる政策課題や社会問題を、エビデンス（データ・ファクトを含む。）とともに説明する必要がある。 具体的には、「①エビデンス（データ・ファクトを含む。）を用いて ②現状とあるべき姿を比較しながら ③現在の課題を解決すべきことを示している」記入となっているかを確認し、①～③の全てが満たされるように記入内容を見直す必要がある。		
5	必須	修正対象	課題	「課題」の記入内容が「長期アウトカム」に対応していない。	「課題」に記入した内容が、事業の結果もたらされる「長期アウトカム」と対応関係にある必要がある。		
6	必須	修正対象	課題	エビデンス（データ・ファクトを含む。）を記入したうえで、定量的な説明（高い・低い・上昇・低下など）を記入する必要がある。	記入要領に従い、「課題」を説明するために必要なエビデンス（データ・ファクトを含む。）を記載し、それを踏まえた課題を記載する必要がある。		
7	必須	修正対象	課題	記入されているエビデンス（データ・ファクトを含む。）が「課題」の根拠として成立している必要がある。	エビデンス（データ・ファクトを含む。）が示唆する内容と「課題」での説明は整合的である必要がある。以下の①又は②の対処を行う必要がある。 ①説明を十分にサポートできるエビデンス（データ・ファクトを含む。）に変更する。 ②エビデンス（データ・ファクトを含む。）の示唆から逸脱しない「説明」に変更する。	修正事例	
8	必須	修正対象	事業概要	事業概要上部のチェック欄（「 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 既存 <input type="checkbox"/> モデル <input type="checkbox"/> 大幅見直し」）にチェックがなされていない。	事業概要上部の該当する項目のチェック欄にチェックをする必要がある。		
9	必須	修正対象	事業概要	「事業概要」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、事業の内容を簡潔に記載する必要がある。 ・事業について概要のみ記入し、個別事業はアクティビティに記入すること。 ・大幅見直し事業の場合、見直し内容が分かるように記入すること。	修正事例	

ロジックモデルp.1 インプット～インパクト							
	対応 必須/ 推奨	点検結果	対象項目	チェック項目/コメント	修正の方法・ヒント	修正イメージ (リンク)	その他（個別コメント）
10	必須	修正対象	インプット	「インプット」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、令和4年度概算要求額を記載（単位：百万円）する必要がある。なお、既存事業の場合には、令和3年度予算額と執行額（又は執行見込額）も記入する必要がある。		
11	必須	修正対象	アクティビティ	「アクティビティ」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、事業の実施内容を記載する必要がある。		
12	推奨	修正対象	アクティビティ	「アクティビティ」をより具体的に記入することが望ましい。	事業概要に記入されている内容のうち、事業の中で行う取組をより細分化・具体化して、記入することが望ましい。		
13	必須	修正対象	アウトプット	「アウトプット」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「アウトプット」には、「アクティビティの結果として生み出される事業活動の直接的な実績」を記載する必要がある。実績を示す指標と、令和4年度の目標値をアクティビティごとに記入する必要がある。 例）アクティビティを「研修の開催」とした場合、アウトプットは「研修の開催回数〇回（令和4年度）」		
14	必須	修正対象	アウトプット、短期アウトカム、長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 設定した指標を算出する調査名等	「アウトプット」「短期アウトカム」「長期アウトカム」の測定指標を算出する調査名・行政記録情報等を記入する必要がある。	定量的な指標を設定できている場合、指標の算出に用いる調査名・行政記録情報等を記入する必要がある。 ※既存調査の場合には①調査名 ②調査周期 ③直近の調査の結果確定時期 を記入。 ※新規調査・新たな制度による報告結果等の場合には、以下の内容を記入。 ①区分…「新規調査」「新たな制度による報告結果（行政記録情報）」 等 ②調査・記録の概要		
15	推奨	修正対象	アウトプット & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 アウトプット欄	「アウトプット」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	アウトプットの目標値（水準）の設定理由として、適切な理由を記入することが望ましい。 適切な理由が記入できない場合には、当該指標を変更することが望ましい。 適切な理由例： ・全国7ブロックで1回ずつ開催するため、研修回数の目標は7回と設定する。 ・パイロット事業としてスタートするため、令和4年度の支援件数の目標は分析に堪える500件程度とする。		
16	推奨	修正対象	アウトプット & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 アウトプット欄	「アウトプット」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	目標年度を令和5年度以降に設定する場合、目標の達成時期の設定理由について記入することが望ましい。 適切な理由が記入できない場合には、当該指標を変更することが望ましい。 適切な理由例： ・補助金申請数を「アウトプット」の指標としているが、制度の認知までに時間がかかると見込まれるため。		
17	必須	修正対象	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「短期アウトカム」には、「アウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期待する成果」の中でも比較的短期・初期に期待される成果を記載する必要がある。また、「短期アウトカム」は可能な限り定量的な指標を設定することが求められる。	修正事例	
18	推奨	修正対象	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	「短期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。適切な理由が記入できない場合には、当該指標を変更することが望ましい。 適切な理由例： 現在の指標の水準が〇〇（数値）であり、××（アクティビティ）により、△△%の向上が見込まれる。また、その他の事業の効果も□□と見込まれるので、●●（目標水		
19	推奨	修正対象	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	「短期アウトカム」は、「アクティビティ」及び「アウトプット」から直結するものであり、目標年度は原則として、令和4年度にするため、目標年度を令和5年度以降に設定する場合、目標の達成時期の設定理由について適切な理由を記入することが望ましい。適切な理由が記入できない場合には、当該指標を変更することが望ましい。 適切な理由例： ・「短期アウトカム」に対して、事業開始直後に効果が発現せず、〇年後から効果が発現することが見込まれるため。	修正事例	
20	必須	修正対象	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「長期アウトカム」には、「アウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期待する成果」の中でも比較的長期的に期待される成果であり、「課題が実現された状態（あるべき姿）」を示す項目を記入する必要がある。また、「長期アウトカム」は可能な限り定量的な指標を設定することが求められる。	修正事例	
21	推奨	修正対象	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	「長期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由として、適切な理由を設定することが望ましい。適切な理由が設定できない場合には、当該指標を変更又は削除することが望ましい。 適切な理由例： 現在の指標の水準が〇〇（数値）であり、××（アクティビティ）により、△△%の向上が見込まれる。また、その他の事業の効果も□□と見込まれるので、●●（目標水準）と設定する。		
22	推奨	修正対象	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	目標の達成時期の設定理由について適切な理由を記入することが望ましい。適切な理由が記入できない場合には、当該指標を変更することが望ましい。 適切な理由例： ・「長期アウトカム」に対して、事業実施が直接的に効果を与え、〇年以内に効果が発現し、その後効果の持続が見込まれるため。 ・「長期アウトカム」に対して「短期アウトカム」（〇〇）を通じて影響を与えるため、事業開始直後に効果が発現せず、効果の発現に〇年程度要することが見込まれるた		
23	必須	修正対象	インパクト	「インパクト」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「行政事業レビューシート」の「政策評価、新経済・財政再生計画との関係」欄のうち、「政策評価」の「施策」欄と同じ内容を記入する必要がある。その際には、当該事業が寄与すると考えられる政策レベルの最終目標を記載する必要がある。		

ロジックモデルp.2 ロジックの確認①②/効果検証方法							
	対応 必須/ 推奨	点検結果	対象項目	チェック項目/コメント	修正の方法・ヒント	修正イメージ (リンク)	その他（個別コメント）
24	必須	修正対象	ロジックの確認① (論理展開の妥当性)	「ロジックの確認①」のチェック（確認）が行われていない。	ロジックの論理的展開が妥当か確認を行う必要がある。確認する中で、必要に応じてロジックモデルの修正が求められる。ロジックモデルの修正を行った場合には、再度すべてのチェック項目について確認を行う必要がある。		
25	必須	修正対象	ロジックの確認① (論理展開の妥当性)	「短期アウトカム」と「長期アウトカム」間の論理的整合性が成立していない。	「ロジックの確認①」はチェックされているが、「短期アウトカム」と「長期アウトカム」間の論理的整合性が成立していない可能性がある。ロジックモデルの当該箇所を再度確認し、修正する必要がある。	修正事例	
26	必須	修正対象	ロジックの確認① (論理展開の妥当性)	「アウトプット」と「短期アウトカム」間の論理的整合性が成立していない。	「ロジックの確認①」はチェックされているが、「アウトプット」と「短期アウトカム」間の論理的整合性が成立していない可能性がある。ロジックモデルの当該箇所を再度確認し、修正する必要がある。	修正事例	
27	必須	修正対象	ロジックの確認① (論理展開の妥当性)	「長期アウトカム」から遡って考えたときに、「アクティビティ」がアウトカムの改善に寄与するものとなっていない。	「ロジックの確認①」はチェックされているが、「長期アウトカム」から遡って考えたときに、「アクティビティ」がアウトカムの改善に寄与するものとなっていない可能性がある。ロジックモデルの当該箇所を再度確認し、修正する必要がある。	修正事例	
28	必須	修正対象	ロジックの確認②（課題解決の手段としての当該事業の妥当性）	「ロジックの確認②」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、課題解決の手段としての当該事業の因果関係を示唆するエビデンスの概要とその説明を記載する必要がある。 その際には、①・②の双方に触れながら、論理的に説明する必要がある。 ①当該事業が課題解決の手段として効果があることを示唆するエビデンス（学術研究、既存の類似事業の実績・効果、モデル事業の実施結果など） ②当該事業を行ううえで、その内容（開催場所、調査・開催件数、アプローチ対象等）が他の事業候補と比べて妥当であることを示すエビデンス また、因果関係を示唆するエビデンスが見当たらないときには、エビデンス（データ・ファクトを含む。）を記入する必要がある。	修正事例	
29	推奨	修正対象	ロジックの確認②（課題解決の手段としての当該事業の妥当性）	因果関係を特定することを目的として統計的な分析を行っているエビデンスが存在するかを確認することが望ましい。	それぞれのエビデンスについて確認し、因果関係を特定するような統計的な分析（例：ランダム化比較実験など）の存在の有無を確認し、記入することが望ましい。	修正事例	
30	推奨	修正対象	ロジックの確認②（課題解決の手段としての当該事業の妥当性）	他の想定される事業との比較を考えるうえで、「ロジックの確認②」のエビデンスが妥当かどうかを再考することが望ましい。	「ロジックの確認②」欄に、当該事業の内容が、他の想定される事業と比較して妥当である客観的な根拠となるエビデンスを記入することが望ましい。	修正事例	
31	必須	修正対象	効果検証方法	「事業の対象」が適切に記入されていない。	「事業の対象」には、アウトカムに応じて各アクティビティの最終的な対象者を記入する必要がある。	修正事例	
32	必須	修正対象	効果検証方法	「事業内容」が適切に記入されていない。	「事業内容」には、ロジックモデルの各アクティビティに対応するものを記入する必要がある。	修正事例	
33	必須	修正対象	効果検証方法	「比較対象」が適切に設定されていない。	「比較対象」には「事業の対象」と同じ階層のものを記入する必要がある。 例1) 【事業の対象：事業を実施している市町村の労働者】の場合は【比較対象:事業を実施していない市町村の労働者】などと設定する。 例2) 例1のような設定が難しい場合、次善策として「事業対象者の事業実施前」を「比較対象」として設定してもよい。 例3) 例1のような設定が難しい場合、次善策として「全国平均との比較」なども「比較対象」として設定してもよい。	修正事例	
34	必須	修正対象	効果検証方法	「アウトカム」が適切に設定されていない。	「アウトカム」にはロジックモデルで設定した「短期アウトカム」、「長期アウトカム」を選択し記入する必要がある。	修正事例	
35	推奨	修正対象	効果検証方法	効果検証の分析手法等を具体的に記入することが望ましい。効果検証が困難な場合は代替手段や阻害要因を解決するための手段を記入することが望ましい。	効果検証方法を、効果検証の対象となるアウトカムの指標、考えられる検証の方法（調査の方法、分析の方法）、実現可能性等が明確になるように、具体的に記入することが望ましい。 上記に伴い、アウトカムの指標等に変更が生じた場合には、「各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由」の対応箇所を変更することが望ましい。	修正事例	